

須崎市藻場復活プロジェクト

ベースライン設定の根拠資料

2010 年度（取組を実施する前）にはホンダワラの生育が確認されず、被度調査の結果はゼロであった。対象区計測対照（No.4～9）においては、活動後にホンダワラの出現が見られる一方で、対照区（No.10）においてはその後においても被度が0～5％、平均被度が5％未満である。

また、2010 年（取組を実施する前）においては、無節サンゴ藻が多くを占める状況であったことから、吸収源としての藻場は活動前には存在していないことを示すことと考える。このことを根拠として、ベースラインをゼロに設定する。

① 活動前の被度調査の結果

2010 年に実施した被度調査の結果を下記に示す。

これらの調査結果と写真より、ベースラインを0と判断した。

○ホンダワラ類の被度

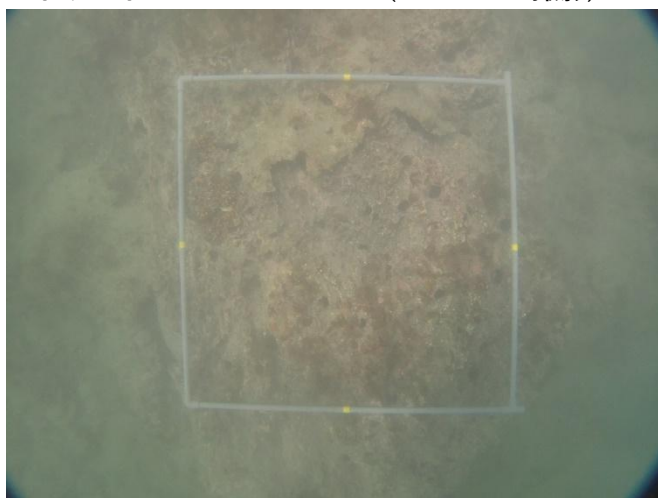
2010 年	単位：被度（％）		
	1/31	2/17	7/8
No.1	0	0	0
No.2	0	0	0
No.3	0	0	0
No.4	0	0	0
No.5	0	0	0
No.6	0	0	0
No.7	0	0	0
No.8	0	0	0
No.9	0	0	0
No.10(対照区)	0	0	観察なし

② 対照区(No.10)の被度調査の結果

地点	年	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6	
	月日	1/31 2/17 7/8	3/2 3/18 2/2	3/28 7/5	1/25 4/18 12/12	2/28 1/17 1/7 12/18 12/1	1/23 3/2 1/21 2/28 6/3	1/29 3/10 1/17 3/12 1/18 3/18 8/6	3/18 1/14 2/24 1/11 2/20 12/25 2/12								
No.10	球藻類	10 10	+	+	+ 15	5	5 10 10	5 +	+ 5 10	5 +	5	10			20	+ 10	
	シオグサ属						+					+		+		+	
	キッコウグサ											+			+	+	
	フサイワズタ																
	ヘライワズタ																
	タカスキズタ																
	アオイハ属	+	+				+		+			+					
	アオサ属					+			+		+	+	+	+		+	
	ミル														+		
	ハヤシ																
	ネザンミル															+	
	アミジグサ属																
	フタエオオギ																
	シマオオギ												+				
	フクロリ		+	+	+	5 5	10	5	+	+	5 20	+	5	+	+	+	5
	カゴメリ				+		+	5		+					+	+	+
	ウスウチワ						+			+				+	+	+	+
	ハラヤハス						+	15						+	+	+	+
	ヒイタギモク						+	15						+			
	ツクシモク					+											
	キシバモク																
	トゲモク																
	フルシモク																
	ホンダワラ類							+	+	+	+		+	+	+	+	+
	ウシケリ										+	+	+	5 5	+	+	+
	スギノリ																
	カイノリ																
	フタツナギ																
	糸状紅藻類									+	+		+	25		+	
	イバラノリ																
	ソノマタ属						+	+		+	+						
	オキツノリ															+	
フサノリ																	
ガラガラ															+	+	
ビロヒバ						+		+		+							
ヒメモサズキ					5	+	15	+	+	5	+				+	30 30	
ハムリカンテ										+	+	15					
ウスアカニンテ																	
無節サンゴモ類	80 70	90 90	60 95 70	80 60		60 65 95 85 85	95 90	70 85 80	90 70	80 90	80 80 70	90 60 80 70	90 60 80 70	90 60 80 70	90 60 80 70	90 60 80 70	
マウサ					+	+	+		+	+	+	+	+	+	+	+	
オバウサ																	
テングサ科						+											
イワ/カワ属						+	+		+	+	+	+	+	+	+	+	
トサカノリ																	
トゲキリンノサイ																	
カイイロノク																	
ソノ属							+				+						
キンノキ																	
カギケノリ																	
イギス科				+												+	
アヤニシキ																	
合計	90 80	-	90 90	60 95 85	95 65	85 95	100 100 100	100 90	70 90 90	95 90	100 95	85 95 95	90 90 90	90 90 90	90 90 100	100	

対照区コドラード写真

コドラート 1m×1m No.10(2020.3.12 撮影)



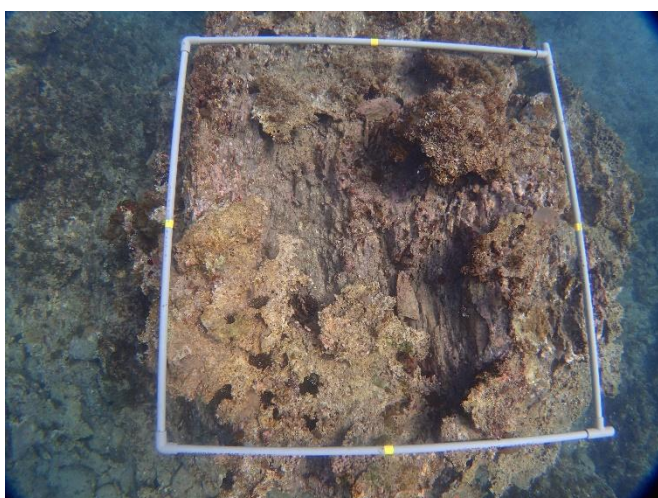
コドラート 1m×1m No.10(2021.3.16 撮影)



コドラート 1m×1m No.10(2022.2.24 撮影)



コドラート 1m×1m No.10(2023.2.20 撮影)



コドラート 1m×1m No.10(2024.2.12 撮影)

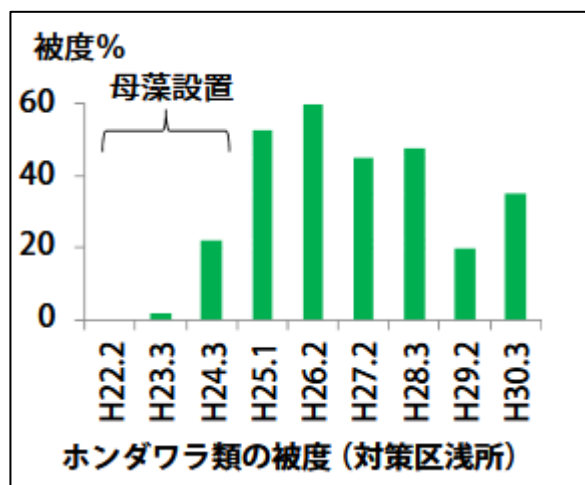


③ 磯焼け対策部会での活動効果報告

また、ひとつみ.jp を見ると、「池ノ浦・久通磯焼け対策部会（高知県須崎市）」活動の効果から、H22年時点で被度が0であることがうかがえる。

以下、引用

藻場の再生については、平成23年冬季以降、対策区の浅所でホンダワラ類の着生が見られるようになり、その後は冬季の被度で30%を超える年（繁茂期の初夏は被度60%以上）がほぼ続いている。



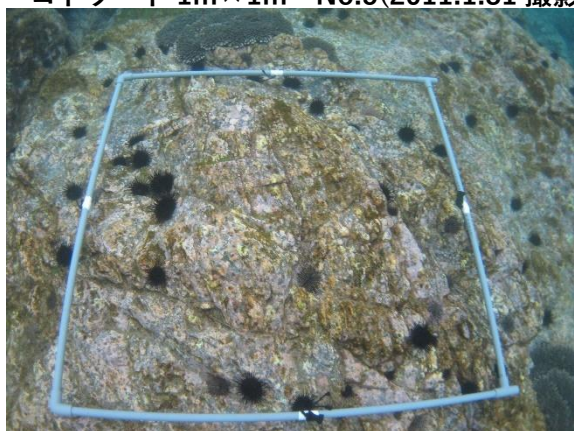
出典：池ノ浦・久通磯焼け対策部会，「池ノ浦・久通磯焼け対策部会－全国の取組情報 活動組織紹介」，水産多面的機能発揮対策情報サイトひとつみ, <https://hitoumi.jp/torikumi/wp/jisseki/2740>

対象区コドラード写真 (N0.5 中域)

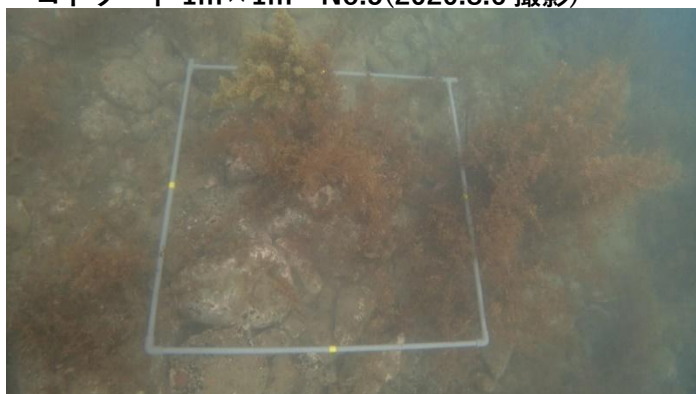
・コドラート 1m×1m No.5(2009.5.19 撮影)



・コドラート 1m×1m No.5(2011.1.31 撮影)



・コドラート 1m×1m No.5(2020.8.6 撮影)



・コドラート 1m×1m No.5(2024.2.12 撮影)

